



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ハーメネイ最高指導者及びアフマディネジャード大統領の新年メッセージ
(3月21日付現地報道)

イラン新年を迎えた3月20日、ハーメネイ最高指導者及びアフマディネジャード大統領はそれぞれイラン国営放送の番組に録画出演し、イラン国民に対し新年のメッセージを述べた。概要は以下の通り。

1. ハーメネイ最高指導者のメッセージ要旨

(1) 昨年（イラン歴 1387 年）は、国内外共に非常に多くの出来事が発生した年であった。

（我が国において）昨年は、原子力分野における朗報により始まった年であり、人工衛星「オミード」の発射も成功裏に行われた。こうした科学技術分野における進歩は国内の有能な研究者をはじめとした様々なアクターによってもたらされたものであり、昨年、イランは（原子力）技術保有諸国の陣列に並ぶこととなったのである。また、実際、こうした驚嘆すべき進捗は、イランに対する新たな信頼及び尊敬の念をもたらしているのである。

(2) （ブシェール原発の試運転について触れ）今や世界は、イランの原子力進捗への道を閉ざす事は出来ない事を認識している。また、その他様々な分野においてイランが発展を成し得た事は、（米国や安保理による）制裁の無効性を示すものであり、さらに偉大なイランは、勤勉で栄誉ある若者の力により、敵のプロパガンダや策略をことごとく打ち破ってきたのである。

(3) （世界中で発生している金融危機による経済問題について触れ）米国発の金融危機は世界中に恐ろしい被害をもたらしており、またイランには更に（経済）制裁が科されている。しかしこうした状況にあっても、イランの施政者達は、国家及び国民を金融危機に起因する経済問題の余波から遠ざけ、相当程度その影響から保護している。また、この経済危機に加えて、昨年の世界における重要問題として、ガザに対するシオニズム体制の敗北及び被抑圧者たるパレスチナ国民の賞賛すべき抵抗を挙げなければならない。22 日間に及ぶシオニズム体制の不名誉な敗北は、世界中の人々に非常に重要な経験を提示したのであり、それは（人々が）圧制者に対して勝利する事ができるという重要な指針であった。

(4) 本年はイランにとって非常に重要な年であり、我々は国家状況を最良の状況に変化させるべく、神による恩寵を必要としている。我々が真剣な変革を必要とするべき分野は、「私

的且つ公的な浪費」の問題及び「様々な国家資源の不適切な浪費」の問題である。消費が慎重且つ賢明に管理されるべき事はイスラームのみならずあらゆる理性的な学術の強調するところである。

2. アフマディネジャード大統領のメッセージ要旨

- (1) 昨年は国際社会における激動の年であったが、偉大なるイランは希望に満ち溢れこの非常に困難な峠を越えることができた。学術、技術、開発及び経済の他、外交の分野においてもイランは大きな成果を獲得する事が出来た。(政府の) 昨年の成果としては、構造改革、技術及び学術上の革新、世界金融危機の渦中にあるの国家経済運営、外交政策上の勝利と全世界におけるイランのプレゼンス強化、(敵による) 脅迫に対する勝利、イラン国家の独立の安定等、を挙げる事が出来る。これら全ての成果は国家(政府)の精力的な努力の賜物であり、今後国家は何の心配もなく、未来に向けた計画策定及びその実施をすることが出来るのである。
- (2) 神の恩寵により、イランにとっては本年もまた急速な進捗・発展の年となるであろう。大規模な変革はイランの国益であり、公正の利益にもまた資するものである。経済大変革計画及びその他繁栄に向けた改革の継続は、国家経済の運営を国民の手に委ねる事を意味しており、これは本年における様々な重要計画の一つでもある。国民は補助金を分配される事で、国家資源の所有者となるのである。また、国家資源の管理及び消費において、真剣且つ影響力を持ちながら直接的な形で参加する事になるのである。
- (3) 今日、国際社会における既存のシステムは失敗に帰しており、世界の諸大国は完全に行き詰まりに直面している。この行き詰まりは秩序のみならず運営や執行の部分についても同様である。国際社会における政治及び安全保障上の重大な危機はより深みを増しており、金融危機に端を発する経済危機は、大国の物質的発展のみを追及した彼らの政治思想、西側的リベラリズム及び唯物理念が重大な失敗に至っている事を物語っている。
- (4) その一方、我々は世界における繁栄の潮流をも目にしている。つまり(イランが採用する) 公正主義の優先及び世界の諸国民間の実質的団結を優先するという考えである。世界的公正とは人類の実際上の要請に対する回答としてまさに必要不可欠なものである。我々は全ての能力が開花出来るよう、今こそ公正を(世界秩序の) 支配的なものとしていかねばならない。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799